

2012年4月2日・発令式での橋下市長の訓示（要旨）

改めまして、みなさんおはようございます。大阪市役所の職員の一員になられたことを心からお喜び申し上げます。本当におめでとうございます。

もう、今日からね、皆さん、早速、公務員ですよ。公務員。これはね、普通の民間人とはやっぱりちょっと違う。ここ窮屈ですねこれは、公務員というのは。いろんなところからね、いろんなこと言われるし。それから公務員たるもの普通の民間人と比べてやっぱりルールをきちんと守るということを示さないと。皆さんが職場に着かれたらわかりますけれどね。皆さんは、国民に対して命令をする立場に立つんです。この民主的國家においてね、人が人に命令を出すなんていうのは、唯一、公権力をもった者。皆さんしかできないんですよ。

私なんか子どもにね、命令したって言うことなんか聞きやしない。それでも皆さんの命令には、これから大阪市民はみんな従うんです。そういうものなんですね、公務員というのは。だから、命令に立つ側、しっかりルールを守らないと命令なんか誰も聞いてくれません。そういう意味ではね、ちょっと窮屈かもわからない。プライベートな時間においても、いろいろ気にしなきゃいけないこともいろいろあるでしょう。でも皆さん、この命令をする立場に立つというのは、非常に重い仕事ではあるけれども、ものすごいやりがいがありますね。僕ですらですよ。人生38年。自分のことしか考えたことのない、私利私欲に生きてきた僕ですら、知事をやり市長をやって、まあ、今の仕事っていうのは、知事になる前に比べたら、そりゃあ、やりがいがありますよ。自分のその考え、自分の行動によってね、今まで救われなかった人が救われる。今まで困っていた人が助かる。弁護士時代も確かにそういう仕事をやってましたが、それに比べてもはるかに公のため、地域のため、大阪のため、ひいては、日本國家のためになる仕事。それが公務員の仕事なんです。まあ、仕事なんていうのはね。楽しんで、楽しくて、そして、もうけて、そして、気楽にやっていける仕事なんてありません。やりがいがあればあるほど、生活が窮屈になるかもしれない。いろんな人をね、助けるような仕事であればあるほど、いろんなしんどいことがあるでしょうね。まあ、人生なんてうまいことできてますよ。プラスマイナスたしてゼロになりますよ。

そういう意味では皆さんは、公務員を目指して、そして、ものすごい競争率の中で選ばれて。選ばれたんですよ、皆さんは。落ちた人もいっぱいいるんです。そういう中で皆さんが選ばれたということは、それだけの能力も持っているし、そして、

大阪市民からそれだけの仕事を託されました。今日のこの気持を出来る限り長く持ち続けてください。・・・この気持を持ち続ければね、必ず大阪市民のためになる仕事につながります。行政の仕事というのはね、皆さん、99.9%は日々着実に、地味に、毎日決められたことをきちっとやる。そういう仕事です。僕がこういう立場でこういう立ち振る舞いをしているもんですから、毎日派手にすったもんだの事がおきるかと思いきやそうではありません。大阪市の職員3万8千。4万人近くの職員は、日々毎日、きちっと、決められたそのルール、制度に則って、公正かつ公平に、そして適正に、出来る限り迅速に、きちっと仕事をやっていますよ。それはね、皆さんが思い描く以上に、今までの人生では経験したことがないくらい、本当に地味に大阪市民の暮らしを支えています。

だけれどもね、0.1%位、この0.1%位のところでね、大きく地域を変えていく、大阪を変えていく、そして日本を変えるような、そういうきっかけになる仕事もあるんです。まあ、バランスですけどね。

それから皆さんがこれからしっかりと仕事をやって、人事評価というものを受けていきます。これからは。これまでの学生時代のように甘い人生を送ることはできません。しっかり評価されるんです。そしてね、みんなお手々つないで平等になんて世界じゃありませんから。出世する人、しない人、出てきますよ。そして、0.1%の仕事をして自分の力で大阪を変えるんだ、多くの困っている人を助けるんだとなればしかるべきポジションにつかなければ、これが現実なんです。

着実に、しっかりこなしていく仕事と、それから、世の中を変えていくような仕事があり、そして、そういうようなものはすべて自分の努力次第で、そういう仕事が出来かどうかすべて決まってきます。これから皆さんが職場に着かれて、部長、局長、副市長、市役所の幹部といわれている人達はみな一生懸命仕事をして、出世をし、今のポジションに着き、そして、大阪市政を動かしているわけなんです。もちろんね、部長、局長、副市長、そうじゃないポジションの人も一生懸命大阪市政を支えてくれています。まあ、いずれにせよね、あとは皆さん次第。どういう仕事をやるか。やりがいを持てるかどうか。どうするか。これからの長い人生、今までの学生の人生の倍以上のこの大阪市役所で働くことになるんでしょけども。あとは本当に皆さんの努力次第ですからね。しっかりがんばって下さい。皆さんの仕事というものが、皆さんの行動というものがね、確実に大阪市民のためになることは間違いありません。だけれど、手を抜けば税金のムダ使いになります。僕は、皆さんに税金以上の、もらっている税金以上のね、10倍、20倍、百倍、千倍くらい

の働きでもって、市民の皆さんにしっかり還元してほしいし、そういうことが出来る、僕は今回の新人の皆さんだと思っていますので、大変期待しております。

先程、0.1%の仕事ということを行いましたけれどもね。実際には、今、大阪市役所、大阪府庁とタッグを組んで、今まで日本では出来なかった、日本政府では出来なかったようなことにも挑戦をしていきます。皆さんが、新人1年目にしてそのような仕事に携わるかどうかわかりません。直接、僕と話をして僕と一緒に仕事をする機会というのはなかなかないかもわかりませんが、それでも、皆さんが日々いろんな仕事をやって、自分の持ち分、自分の領域をしっかりやるとですね、皆さんの上司が助かるんです。そして、皆さんの上司が助かるということになると、またその皆さんの上司の、またその上の上司が助かる。そうするとね、だいたいそのあたりくらいから。皆さんの上司の上司あたりから、だいたい僕がいろんな無理難題ふっかけて、これやってくれ、あれをやってくれという仕事がだいたいそのあたりの人達が一生懸命やってくれているわけなんですね。皆さんが仕事を怠るとね、その皆さんの上司の上司くらいの方が皆さんの世話ばかり焼かなければならないから、僕からいろんな無理難題をふっかけられたことに力を注ぐことができません。だから、直接、僕がいろんなところでメディアで言っているようなそういうことに皆さんが携わらなくても、与えられた仕事をきっちりやるのがね、それがひいては組織の余裕、組織の力を生み出して、然るべきポジションの人がしっかり仕事が出来て、そしてそれが、大阪を変えるきっかけにもなり、日本を変えるきっかけにもなるんですね。

大阪市役所の最初の仕事、新人に与えられる仕事はどういうものかわかりませんが、僕は民間企業とかいろんなところを見ていて、また、霞ヶ関なんかを見ててね。あれだけ難しい公務員試験に受かったのに、こんなことやられるのかなんてことは普通の世界、当たり前ですよ。新聞記者なんかもね、最初のころは大変なんです。みんなこんな事やられるのか。こんなことやられるために大阪市庁に入ったんじゃない。この企業に入ったんじゃないと最初、新人の皆さんは思われるかもしれません。でもね、そういう仕事の積み重ねで組織は動くんだし、そういう仕事があるから先程も言いましたけれど、皆さんの上司の上司とかそういうところが余裕の、そういうキャパシティー、余裕の力といいますかね、そういうものを持つことができるんです。そしてそれが、ひいては、市長室に集まってくる幹部、副市長初めとする、局長や部長という幹部の力の余裕にもつながっていきます。新人の皆さんの力が、これから大阪市役所がどれくらい力を発揮できるか、すべて皆さんの力にか

かっていますから、ぜひ皆さん、与えられた仕事をしっかりこなして下さい。がんばって下さいよ。皆さんのがんばり次第で市民のためになるかどうかすべてが決まるんですからね。

これから皆さんと大阪市政、一緒になって運営していきます。先程も言いましたように、なかなか皆さんと直接会うことがないかも知れませんが、仕事という面で必ずどこかでつながっていますから。僕も皆さんのことを常に意識するし、皆さんもそれぞれの職場のところで、5階にある市長室での動きというものを常に意識して下さい。メディアでいろいろ報じられているかも知れませんが、それもすべて皆さんの仕事によって支えられることになります。大阪市民のため、大阪のため、そして、日本国家のために力を尽くしてがんばっていきましょう。がんばって下さいね。期待しています。